

1. 会合の概要

日 程 : 2024年3月25日(月)～ 3月27日(水)ハイブリッド形式(ジュネーブ ITU本部 & Zoom)

目 的 : ITU-Rの運営方針等について検討し、無線通信局長に助言。

参加者 : ITU加盟国等から約230名出席。日本からは総務省(国周室)、外務省(寿府代)、NTTドコモ(新WP5D暫定議長)、ワシントンコア(森氏他)が現地参加。KDDI(河合WP4C議長)NHK(大出SG6副議長他)、スカパーJSAT(河野SG4副議長)他がリモート参加。(総計10名)

2. 主な結果

(1) 衛星調整手続きの電子化プロジェクトの促進について(Resolution55の実施)

- ・日本は2017年から、衛星調整手続きの電子化に関し、ITU-Rへの職員派遣とその人件費拠出や、システム改善提案等により支援を行っている。本会合では、日本から支援継続を表明するとともに、今後の更なる改善案を提案。

⇒ITUから日本に謝意が述べられるとともに、日本の改善提案に対してサウジアラビアやエジプトから支持があった。

(2) 副議長の任命

- ・2023年無線通信総会(RA-23)にて決定された副議長候補の任命に際して、ウクライナ、EU諸国がロシア人候補に対して反対。
- ・ロシアは、政治的理由からロシア人候補が落選したSG6、7の決定はITUの種々の規定に違反しているとしてやり直しを求めるとともに、手続きの正当性について疑義を呈した。また、ロシア人候補を除外するのであれば、イタリア、アメリカ人候補についても除外を要求。

⇒ITU法務顧問より、投票は合法的な措置である旨の説明。ウクライナからの動議により、上記3名を対象とした投票が実施。

⇒イタリア、アメリカ人候補は任命(賛成45、反対3、棄権等6)、ロシア人候補は非任命(賛成10、反対38、棄権等6)となった。

(3) CPMプロセスの効率化(コレスポndenスグループ(CG)設置)

- ・2023年無線通信総会(RA-23)において、会議準備会合(CPM)のプロセスの効率化が議論され、RAGにおいて検討を行うこととされた。本RAG会合において、複数の国からCG設置を求める寄書が入力された。

- ・日本から同CGの議長を推薦。

⇒CG設置が合意され、検討対象をCPM第2回とする等の同CGに関するTOR(付託条項)が作成された。

⇒CG議長の日本人候補については、英国、ドイツ等複数の国から支持があったものの、ロシアが反対。RAG議長が、代案としてサウジアラビア人候補を提案。全体の進行の遅れもあり、「別候補でコンセンサスが形成されるのであれば妨げない」として、サウジアラビア人候補の就任を容認。